

平成18年度感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

- 1 平成18年4月10日報告分から18年7月19日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑い事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤65件、血漿分画製剤1件である。輸血用血液製剤の内訳は、

(1) B型肝炎報告事例：	35
(2) C型肝炎報告事例：	15
(3) HIV感染報告例：	0
(4) その他の感染症報告例：	15

- 2 B型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に感染症検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は34例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は9例）。
 - (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は1例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は4例（劇症化例含む。）である。

- 3 C型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は14例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は4例）。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は1例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

- 4 HIV報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

- 5 その他感染症報告事例
 - (1) 細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は0例である。輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は1例。
 - (2) パルボB19感染症例（供血者と受血者のウイルス塩基配列一致）は1例。E型肝炎感染疑い事例は1例（既報告の追加情報。主治医が因果関係を否定）である。

- 6 血漿分画製剤での報告事例
輸血（上記報告済み）と併用されたアルブミン使用症例1例（原料血漿等は陰性）。人ハプトグロビン（ハプトグロビン）、フィブリノゲン加第13因子及び加熱人血漿タンパク使用症例1例は、原料等のNAT調査中。

輸血によるHBV感染報告例(疑い例を含む。)

識別番号	日赤番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別 NAT	献血者個別 NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再検査済	同一供血者製剤確保済	同一供血者製剤使用済	感染症発症	転帰	供血者発症及の場合の供血者保管検体(抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症及の場合の供血者
供血者陽性事例																							
A-0600072	3-06099	2006/7/6	2006/7/18	人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿 人血小板濃厚液(放射線照射)	男	70	循環器疾患、消化器腫瘍	B型肝炎	2005/11 2005/11 2005/11	HBsAg(-) (05/07)	HBsAg(+) (06/06)	陽性(輸血後)	保管検体18 本中17本: 1本:HBV-NAT(+)		片割れ製剤受血者の情報:陽性となった当該輸血用血液(FFP)と同一採血番号の製剤として1本の原料血漿、1本の赤血球MAPがあり、原料血漿は使用済みで、赤血球MAPは医療機関へ供給済み(受血者の情報については調査中)。	14単位 18単位 50単位	13/18 (2名はHBs抗体のみ陽性)	18本の原料血漿、4本の新鮮凍結血漿、6本の赤血球MAPを製造。原料血漿は10本確保済み、新鮮凍結血漿は全て確保済み。	原料血漿8本は使用済み、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
陽転事例																							
A-0600014	3-06049	2006/4/19	2006/5/2	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	消化器腫瘍、血液腫瘍	B型肝炎	03/08- 04/12 03/08 05/03 05/03	HBsAg(-) (02/10) (03/04)	HBsAg(+) (06/04)	陽性(輸血後)	NAT(-)			40単位 10単位 3単位 1単位	6/8	3本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。全て確保済み。	原料血漿は全て使用済み、新鮮凍結血漿は医療機関へ供給済み。	中等度	軽快		
A-0600017	3-06051	2006/4/21	2006/5/8	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	40	血液腫瘍	B型肝炎	2005/12	HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (05/12)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBV-DNA(+) (06/04)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)			6単位	0/4	4本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。全て確保済み。		中等度	未回復		
A-0600021	3-06055	2006/5/2	2006/5/17	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	50	血液腫瘍	B型肝炎	2005/11-12	HBsAg(-) (05/11)	HBsAg(+) (06/04)	調査なし	NAT(-)			45単位	1/4	4本の原料血漿を製造し、全て確保済み。		重篤	軽快		
A-0600029	3-06083	2006/5/9	2006/5/23	人赤血球濃厚液 新鮮凍結人血漿 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	60	循環器疾患	B型肝炎	2005/06 2005/06 2005/06	HBsAg(-) (05/06)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(+) (06/01) HBsAg(+) (06/05)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)			8単位 10単位 20単位	5/10	10本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿、5本の赤血球MAPを製造。原料血漿は1本確保済み。	原料血漿は9本使用済み、新鮮凍結血漿、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	軽快		
A-0600032	3-06066	2006/5/11	2006/5/25	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液	男	70	血液疾患	B型肝炎	2006/02-04 2006/02-03 2006/02 2006/02-04	HBV-DNA(-) (06/02)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(+) (06/05)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)			140単位 90単位 2単位 10単位	5/29	29本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。全て確保済み。		軽微	不明		
A-0600033	3-06067	2006/5/15	2006/5/29	人赤血球濃厚液	男	70	腎疾患	B型肝炎	2006/01	HBsAg(-) (06/01)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(+) (06/05)	陽性(輸血後)	NAT(-)			4単位	0/2	2本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。全て確保済み。		軽微	不明		
A-0600036	3-06071	2006/5/18	2006/6/1	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	2005/11- 2006/03 2005/12- 2006/03	HBsAg(-) (04/07)	HBV-DNA(-) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(+) (06/05)	陽性(輸血後)	NAT(-)			80単位 16単位	6/16	16本の原料血漿、5本の新鮮凍結血漿を製造。全て確保済み。		重篤	未回復		
A-0600039	3-06073	2006/5/22	2006/6/5	人赤血球濃厚液 新鮮凍結人血漿	男	80	消化器腫瘍、血液腫瘍	B型肝炎	2003/11 2003/11	HBsAg(-) (03/11)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (06/05)	陽性(輸血後)	NAT(-)			4単位 8単位	4/8	6本の原料血漿、4本の赤血球MAPを製造。	原料血漿は全て使用済み、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
A-0600041	3-06075	2006/5/24	2006/6/5	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	40	血液腫瘍	B型肝炎	2005/07-08 2005/08	HBsAg(-) (05/06)	HBV-DNA(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (06/05)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)	ペニロン		200単位 6単位	17/23 (2名がHBsAbのみ陽性、3名がHBsAb陽性、HBsAb陰性)	23本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	中等度	未回復		
A-0600042	3-06076	2006/5/29	2006/6/9	新鮮凍結人血漿 人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	<10	心疾患	B型肝炎	2004/04 2004/04 2004/04	HBsAg(-) (03/12)	HBsAg(+) (06/04) HBsAg(+) (06/05)	院内試験のみ 検体ないの 調査なし	NAT(-)		患者の父親がHBV陽性であることが判明し、垂直感染が濃厚であるとの医療機関からのコメント	11単位 4単位 2単位 10単位	8/14	10本の原料血漿、4本の新鮮凍結血漿、8本の赤血球MAPを製造。	原料血漿は全て使用済み、新鮮凍結血漿、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	軽微	未回復		
A-0600043	3-06077	2006/5/29	2006/6/9	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液 人血小板濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿	女	80	循環器疾患	B型肝炎	2006/03 2006/03 2006/03	HBsAg(-) (06/03)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (06/05) HBsAg(+) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (06/05)	調査なし	NAT(-)	アルブミン	-他医療機関での検査で輸血前HBsAg(-)、HBsAb(+) -担当医より輸血と因果関係なしと考えるとのコメントあり。	8単位 2単位 15単位 10単位	3/13	13本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿、5本の赤血球MAPを製造。原料血漿は1本確保済み、新鮮凍結血漿は確保済み。	原料血漿は9本使用済み、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	中等度	軽快		

国内輸血例

A-06000048	3-06081	2006/6/5	2006/6/16	新鮮凍結人血漿 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	80	消化器疾患	B型肝炎	2005/10-11 2005/10-11	HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) EIA(+) PHA(-) HBV-DNA(-) (05/11)	HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(+) HBV-DNA(-) (05/10)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)	ゲンノプロリン IH	患者死亡例(簡票) (輸血との関連性ありとの担当 医の見解)	36単位 18単位	14/29	27本の原料血漿、8本の新鮮凍結血漿、18本の赤血球MAPを製造。原料血漿は11本確保済み、新鮮凍結血漿は6本確保済み。	原料血漿は16本使用済み、新鮮凍結血漿は2本医療機関へ供給済み、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	死亡(輸血との関連性ありとの担当医の見解)
A-06000054	3-06085	2006/6/8	2006/6/22	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	2005/10-2006/4 2005/10-2006/3 2005/11-2006/4 2005/10-2006/4	HBsAg(-) (05/03)	HBsAg(+) HBsAb(-) IgM-HBcAb(-) HBV-DNA(+) (06/05)	調査なし	NAT(-)		患者死亡例(簡票) (肝性昏睡による死亡。輸血との因果関係は不明との担当医コメント)	80単位 30単位 5単位 7単位	6/18	18本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。全て確保済み。		重篤	死亡(肝性昏睡による死亡。輸血との因果関係は不明との担当医コメント)
A-06000058	3-06087	2006/6/13	2006/6/26	人赤血球濃厚液	女	50	血液腫瘍	B型肝炎	2005/11-12	HBsAg(-) HBsAb(+) HBeAb HBeAg(-) HBV-DNA(-) (05/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) (06/04)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)			8単位	1/6	4本の原料血漿、4本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は全て確保済み、新鮮凍結血漿は全て確保済み。		重篤	軽快
A-06000061	3-06090	2006/6/21	2006/7/6	人赤血球濃厚液 新鮮凍結人血漿	男	80	消化器腫瘍	B型肝炎	1997/11 1997/11	HBsAg(-) (97/11)	HBsAg(+) (06/06)	陽性(輸血後)	NAT(-)		献血者の再献血-HBcAb(-)時の保管検体個別NATはHBV-DNA(-)であり、また当該献血者はHBcAb(+)/かつHBsAb(+) であった。	2単位 20単位	11/11 1人はHBcAb(+) HBV-DNA(-) 備考参照	12本の新鮮凍結血漿、10本の赤血球MAPを製造。	新鮮凍結血漿、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	軽微	未回復
A-06000069	3-06093	2006/6/28	2006/7/12	新鮮凍結人血漿 人赤血球濃厚液	女	50	消化器疾患	B型肝炎	2005/4-5 2005/5	HBsAg(-) HBsAb(-) HBsAb(-) (05/01)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAb(-) HBsAb(+) HBV-DNA(+) (06/05)	陽性(輸血後)	NAT(-)	人血清アルブミン(05/04-05/6) バイアル	生体部分肝移植実施 ドナー HBsAg(-)、HBsAb(-)、 HBsAg(-)、HBsAb(-)、HBsAb(-) (05/04) HBsAg(-)HBsAb(-)X06/08)	184単位 8単位	51/66	38本の原料血漿、10本の新鮮凍結血漿、40本の赤血球MAP、1本の洗浄赤血球、1本の白血球除去赤血球を製造。原料血漿は1本確保済み。	原料血漿は35本使用済み、新鮮凍結血漿、赤血球MAP、洗浄赤血球及び白血球除去赤血球は全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復
A-06000068	3-06095	2006/7/3	2006/7/12	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液	女	70	消化器腫瘍	B型肝炎	2006/1 2006/1	HBsAg(-) (05/12) HBV-DNA(-) (06/01)	HBV-DNA(+) (06/04)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)		患者死亡例 (原疾患の急の転移により死亡)	2単位 2単位	0/2	2本の原料血漿を製造し、全て確保済み。		軽微	死亡(食道癌の転移により死亡。輸血との因果関係なしとの担当医コメント)
A-06000070	3-06097	2006/7/5	2006/7/18	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	2004/06-11 2004/05-10	HBsAg(-) (03/09)	HBV-DNA(+) (04/10)	陽性(輸血後)	HBV-NAT(-)	乾燥スルホ化人免疫グロブリン(04/11) 人血清アルブミン(04/05/-10)	患者死亡例(簡票) (肝不全により死亡。輸血との関連性ありとの担当医の見解。)	80単位 4単位	7/8	8本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み、新鮮凍結血漿は医療機関へ供給済み。	重篤	死亡(肝不全により死亡。輸血との関連性ありとの担当医の見解。)
A-06000074	3-06101	2006/7/7	2006/7/20	人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	70	急性心筋梗塞、心室中隔破裂	B型肝炎	2006/04 2006/04 2006/04	HBsAg(-) (06/04)	HBsAg(+) (06/06)	HBV関連検査実施予定	保管検体10本についてHBV-NAT実施予定		患者死亡例(簡票) (肝不全により死亡。輸血との関連性ありとの担当医の見解。)	10単位 8単位 10単位	3/10	10本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿、4本の赤血球MAPを製造。原料血漿は1本確保済みで9本は使用の有無を調査中。新鮮凍結血漿は確保済み。	赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	軽微	調査中
	3-06103	2006/7/11		人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液	男	70	悪性リンパ腫	B型肝炎	2004/08-2005/04 2005/04 2005/03-04	HBsAg(-) (04/07)	HBV-DNA(+) (06/05) HBsAg(+) HBsAb(-) HBV-DNA(+) (06/06)	HBV関連検査実施予定	保管検体13本についてHBV-NAT実施予定			14単位 2単位 30単位	調査中	調査中		中等度	未回復
	3-06105	2006/7/18		人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	80	骨折	B型肝炎	2006/04	HBsAg(-) (03/10)	HBsAg(+) (06/06) HBsAb(-) HBcAb(+) (06/06)	HBV関連検査実施予定	保管検体6本についてHBV-NAT実施予定			6単位	1/6	6本の原料血漿を製造し、使用の有無を調査中。		中等度	軽快

3-06106	2006/7/19	人赤血球濃厚液	男	70	消化器腫瘍	B型肝炎	2006/02	HBV-DNA(-) (06/02)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) (06/05)	HBV関連検査 実施予定	保管検体2本 について HBV-NAT実 施予定	4単位	1/2	2本の原料血漿、 1本の新鮮凍結 血漿を製造。原 料血漿は使用の 有無を調査中。 新鮮凍結血漿は 確保済み。		軽微	不明
3-06107	2006/7/19	新鮮凍結人血漿	男	40	消化器疾患	B型肝炎	2006/02-05	HBsAg(-) (06/01)	HBsAg(+) IgM-HBcAb(-) (06/06) HBsAg(+) IgM-HBcAb(+) (06/07)	HBV関連検査 実施予定	保管検体8本 について HBV-NAT実 施予定	16単位	3/8	4本の原料血漿、 4本の新鮮凍結 血漿、8本の赤血 球MAPを製造。 原料血漿は使用 の有無を調査 中。	新鮮凍結血漿、 赤血球MAPは全 て医療機関へ供 給済み。	重篤	調査中
3-06108	2006/7/19	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	80	不明	B型肝炎	2006/03	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (06/03)	HBV-DNA(+) (06/07)	HBV関連検査 実施予定	保管検体2本 について HBV-NAT実 施予定	4単位	調査中	調査中		軽微	調査中

輸血後NATで陰性又は
輸血前後で陽性

A-0600012	3-06046	2006/4/13	2006/4/26	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	30	出血	B型肝炎	06/02	HBsAg(-) (05/08)	HBV-DNA(+) (06/03) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(-) (06/03)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	NAT(-)	5単位	0/3	3本の原料血漿 を製造し、全て確 保済み。		中等度	不明		
A-0600015	3-06050	2006/4/21	2006/5/2	人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	50	泌尿器腫瘍 腎臓疾患	B型肝炎	2006/03	HBsAg(-) HBcAb(-) HBsAb(-) (06/02)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBV-DNA(-) (06/04)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	NAT(-)	4単位 2単位	0/3	3本の原料血漿、 1本の新鮮凍結 血漿を製造。全 て確保済み。		軽微	未回復		
A-0600024	3-06058	2006/5/2	2006/5/17	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	90	血液腫瘍	B型肝炎	2006/04 2006/01	HBsAg(-) HBV-DNA(+) (06/01)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/04)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)	30単位 2単位	1/3	3本の原料血漿 を製造。全て確 保済み。	検査結果を受けて、担当医より 患者が輸血前よりHBV陽性 であったことから輸血血液との 因果関係なしとのコメントあり。	軽微	未回復		
A-0600025	3-06059	2006/5/8	2006/5/17	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿	女	50	骨腫瘍	B型肝炎	2006/03 2006/03 2006/03	HBsAg(-) HBsAb(-) HCVAb(+) (06/03)	HBsAg(+) HBsAb(+) HCVAb(+) (06/04)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	NAT(-)	10単位 12単位 10単位	1/12	8本の原料血漿、 8本の新鮮凍結 血漿、5本の赤血 球MAPを製造。 原料血漿は4本 確保済み。凍結 血漿は7本確保 済み。	原料血漿は4本使 用済み。新鮮凍 結血漿は1本医療 機関へ供給済 み。赤血球MAP は全て医療機関 へ供給済み。	軽微	不明		
A-0600034	3-06088	2006/5/17	2006/5/29	人赤血球濃厚液 新鮮凍結人血漿	女	60	消化器腫瘍	B型肝炎	2006/03 2006/03	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/03)	HBsAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (06/04) HBsAg(±) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/03) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(-) (06/05)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	NAT(-)	8単位 12単位	1/10	8本の原料血漿、 4本の新鮮凍結 血漿、6本の赤血 球MAPを製造。 原料血漿は4本 確保済み。	原料血漿は2本使 用済み。新鮮凍 結血漿及び赤血 球MAPは全て医 療機関へ供給済 み。	軽微	未回復		
A-0600035	3-06089	2006/5/17	2006/5/29	人赤血球濃厚液 人血小板濃厚液 人血小板濃厚液(放射線照射)	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	2005/11- 2006/01 2005/11- 2006/01 2005/12	HBsAg(-) (05/10) HBsAg(-) HBcAb(+) HBV-DNA(-) (05/11)	HBsAg(+) HBsAg(-) IgM-HBcAb(+) (06/02) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (06/05)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	NAT(-)	32単位 75単位 25単位	6/24	23本の原料血 漿、5本の新鮮凍 結血漿を製造。 全て確保済み。		中等度	未回復		
A-0600037	3-06070	2006/5/18	2006/6/1	人血小板濃厚液(放射線照射)	男	50	消化器疾患	B型肝炎	2005/12	HBsAg(-) HBsAb(+) HBsAg(-) HBcAb(+) HBsAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(-) (05/05) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) HBsAb(+) HBcAb(+) HBV-DNA(-) (05/12)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (06/01) HBV-DNA(+) (06/03) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(-) (06/05)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	NAT(-)	人血清アルブミ ン(05/12- 06/01)	35単位	1/2	2本の原料血漿 を製造し、全て確 保済み。		軽微	不明	
A-0600060	3-06089	2006/6/20	2006/6/30	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	2006/2	HBsAg(-) (05/10) HBsAg(-) (06/02)	HBsAg(+) (06/03) HBsAg(-) HBsAb(-) IgM-HBcAb(-) (06/05) HBV-DNA(+) (06/06)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	HBV-NAT(-)	グロベニン (05/11.06/01)	患者死亡例(鑑票) (肺炎による死亡。肝炎との関 与は否定できないと担当医コ メント)	4単位	1/3	3本の原料血漿 を製造し、全て確 保済み。		重篤	死亡(肺炎 による死亡。 肝炎との関 与は否定で きないと担 当医コメン ト)

A-06000067	3-06094	2006/6/30	2006/7/12	人赤血球濃厚液	男	60	血液腫瘍	B型肝炎	2006/1-2	HBsAg(-) (99/06)	HBsAg(+) HBsAb(-) (06/04) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBV-DNA(+) (06/06)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)	6単位	1/4	4本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿は確保済み。	中等度	不明			
陽転未確認事例																					
A-06000010	3-06044	2006/4/12	2006/4/24	新鮮凍結血漿 人血小坂濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液	男	80	循環器疾患	B型肝炎	06/02 06/02 06/02-03 06/02-03	HBsAg(-) (05/10) HBsAg(+) (06/01)	HBsAg(-) HBsAb(+) (06/04) HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) (06/04)	陰性(輸血後)	NAT(-)	24単位 20単位 6単位 32単位	6/33	33本の原料血漿、13本の新鮮凍結血漿、12本の赤血球MAPを製造。原料血漿は21本確保済み。新鮮凍結血漿は全て確保済み。	原料血漿は12本使用済み。赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	中等度	軽快		

輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)

識別番号	日赤番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血率	同一供血者製剤連投率	同一供血者製剤使用率	感染症等転帰	転帰	供血者免責及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)投与時点	供血者免責及の場合の供血者検査値		
供血者陽性事例																									
A-06000063	3-06092	2006/6/23	2006/7/6	新鮮凍結人血漿 <追加> 新鮮凍結人血漿 人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	30	産科出血	C型肝炎	2004/1 2004/1	HCV-Ab(-) (04/01)	HCV-Ab(+) (06/08)	陽性(輸血後)	HCV-NAT(+) 1本 <追加> 保管検体5本 について HCV-NAT(-)	新鮮凍結血漿2本、照射赤血球MAP3本	調査によるHCV個別NATすり抜け(陽性) <追加>併用血液製剤についても担当医が被疑薬とした 患者及び献血者検体とでCore領域前半部365bpの塩基配列を比較したところ両者の塩基配列は全て一致した。両者ともGenotype III(2a)であった。	2単位 <追加> 4単位 6単位	調査中 次回献血(06/06) HCVAb(+) <追加> 4/5	新鮮凍結血漿と同一採血番号製剤MAPを輸血された患者は原疾患にて死亡。 <追加> 3本の原料血漿、5本の新鮮凍結血漿、2本の赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	原料血漿は使用済みで、赤血球MAPは医療機関へ供給済み(赤血球MAPを輸血された患者は原疾患にて死亡)。 <追加> 原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	不明	保管検体について個別HCV-NAT(+) (03/11)	HCVAb(+)		
陽転事例																									
A-06000008	3-06042	2006/4/10	2006/4/20	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	60	脳神経、循環器疾患	C型肝炎	05/11	HCV-Ab(-) (05/11)	HCV-RNA(+) (06/03)	調査なし	NAT(-)			4単位	0/2			重篤	未回復				
A-06000019	3-06053	2006/4/27	2006/5/11	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	82	消化器疾患	C型肝炎	2006/02	HCVAb(-) (06/01)	HCVJ7Ag(+) (06/04)	陽性(輸血後)	NAT(-)			4単位	0/3			軽微	未回復				
A-06000031	3-06065	2006/5/11	2006/5/25	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	70	骨折	C型肝炎	2006/02	HCV-Ab(-) (06/02)	HCVAb(+) HCV-RNA(+) (06/05)	調査なし	NAT(-)		担当医が、被疑薬を1本追加(2006/02/22輸血分)	2単位+2単位	0/2 <追加> 0/1			重篤	未回復				
A-06000045	3-06079	2006/5/31	2006/6/13	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	20	血液腫瘍	C型肝炎	2005/02-06 2005/02-06	HCV-Ab(-) (05/02)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (06/05)	陽性(輸血後)	NAT(-)	ヴェノグロブリンIH		245単位 20単位	29/34			34本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は2本確保済み。	原料血漿は32本使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み	中等度	未回復		
A-06000048	3-06080	2006/6/5	2006/6/16	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	60	腎疾患	C型肝炎	2005/11	HCV-Ab(-) (05/09) HCV-RNA(-) (05/11)	HCV-Ab(+) HCVJ7Ag(+) HCV-RNA(+) (06/04) HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (06/06)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体8本 について HCV-NAT(-)		12単位	1/6			6本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。全て確保済み。		中等度	未回復			
A-06000057	3-06086	2006/6/12	2006/6/23	新鮮凍結人血漿 人赤血球濃厚液	男	40	消化器疾患	C型肝炎	2006/2 2006/2-3	HCV-Ab(-) (06/01)	HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (06/06)	陽性(輸血後)	NAT(-)			12単位 12単位	1/12			12本の原料血漿、4本の新鮮凍結血漿、6本の赤血球MAPを製造。原料血漿は6本確保済み。新鮮凍結血漿は確保済み。	原料血漿は6本使用済み。赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	中等度	未回復		
A-06000062	3-06091	2006/6/22	2006/7/6	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	70	腎疾患	C型肝炎	2005/7-10	HCV-Ab(-) (05/04)	HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) (06/05)	陽性(輸血後)	NAT(-)			12単位	4/7			7本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は1本確保済み。	原料血漿は6本使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	軽微	軽快		
A-06000075	3-06102	2006/7/10	2006/7/20	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	50	消化器疾患	C型肝炎	2005/12	HCV-Ab(-) (05/12)	HCV-Ab(+) (06/06)	HCV関連検査実施予定	保管検体2本 について HCV-NAT実施予定		4単位	1/2			2本の原料血漿を製造。使用の有無を調査中。		重篤	調査中			
	3-06104	2006/7/12		人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液 新鮮凍結人血漿	男	10	急性リンパ性白血病	C型肝炎	1999/02 1999/02- 2000/07 1999/02-10 1999/10 1999/02-08	HCV-Ab(-) (09/01)	HCV-Ab(+) (08/06)	HCV関連検査実施予定	保管検体56本 について HCV-NAT実施予定		5単位 33単位 90単位 20単位 12単位	44/56			調査中		重篤	調査中			
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																									
A-06000011	3-06045	2006/4/13	2006/4/26	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	70	骨折	C型肝炎	06/01	HCV-Ab(-) (06/01)	HCV-Ab(+) (06/03)	陰性(輸血後)	NAT(-)			2単位	0/1			1本の原料血漿を製造し、全て確保済み。	軽微	未回復			

-44-

国内輸血例

A-06000303	3-06064	2006/5/11	2006/5/25	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	90	泌尿器腫瘍	C型肝炎	2006/01	HCVAb(-) HCVcAg(-) (06/01)	HCVAb(-) HCVcAg(-) (04/04)	陽性(輸血前) 陰性(輸血後)	NAT(-)	2単位	0/1	原料血漿1本を製造し、確保済み。	軽微	不明	
A-06000303	3-06072	2006/5/22	2006/6/5	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	50	生殖器腫瘍	C型肝炎	2005/11	HCVAb(-) (05/10)	HCVAb(+) (06/5)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)	4単位	1/2	2本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は全て確保済み、新鮮凍結血漿は確保済み。	軽微	不明	
A-06000093	3-06096	2006/7/4	2006/7/18	新鮮凍結人血漿	女	70	血液腫瘍、腎疾患	C型肝炎	2005/9	HCV-Ab(-) (05/07)	HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (06/08)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	NAT(-)	4単位	2/2	2本の原料血漿、2本の赤血球MAPを製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	重篤	未回復	赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。
隔転未確認事例																			
A-06000073	3-06100	2006/7/7	2006/7/20	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液	男	40	血液腫瘍	C型肝炎	2005/01-08 2005/01-04	検体なし	HCV-Ab(-) HCV-RNA(+) (05/09) HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (06/03)	HCV関連検査実施予定	保管検体12本についてHCV-NAT実施予定	90単位 6単位	10/12	12本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	軽微	未回復 (患者は原疾患にて死亡。本剤との因果関係はないとの担当医の見解。)	新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。

輸血によるその他ウイルス感染報告例(疑い例を含む。)

識別番号	日赤番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別 NAT	献血者個別 NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血量再賦血率	同一供血者製剤確保率	同一供血者製剤使用率	感染症等転帰	転帰	供血量超過及の場合の供血量保管検体(抗体、NAT)(投与時点)	供血量超過及の場合の供血量の検査値
供血者陽性事例																							
A-06000040	3-06074	2006/5/22	2006/6/5	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	50	消化器腫瘍	バルボウイルスB19感染	2006/04	B19-DNA(-) B19抗体 [IgM](-) B19抗体 [IgG](-) (08/04)	B19-DNA(+) B19抗体 [IgM](+) B19抗体 [IgG](+) (08/05)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本: B19-DNA(+) B19抗体 [IgM](+) B19抗体 [IgG](+) 保管検体2本: B19-DNA(-) B19抗体 [IgM](-) B19抗体 [IgG](-)	患者検体とB19-DNA陽性保管検体でNS1/VP1領域(1069bp)の塩基配列を比較した結果、全ての塩基配列は一致した。	4単位	-	3本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造し、全て確保済み。	重篤	回復				
隔転未確認事例																							
A-06000020	3-06054	2006/4/28	2006/5/12	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液	男	50	血液疾患	E型肝炎	2005/05-09	HEV-RNA(+) Ab(+) IgG-HEV-Ab(+) HEV-RNA(-) (08/03) HEV-RNA(-) (06/04)	陽性(輸血後)	保管検体34本についてHEV-RNA(-)	担当医より、保管検体の検査結果が陽性であったことから本剤との因果関係は否定された。食事や海外旅行などの病歴もなく、感染経路は不明とのコメント。	150単位 70単位 5単位 13単位	-	34本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は11本確保済み。	重篤	軽快	原料血漿は23本使用済み。新鮮凍結血漿は医療機関へ供給済み。				

-45-

輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)

識別番号	日赤番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後細菌検査(年月)	受血者検査	採骨検体検査	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再感染※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者採骨検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症及の場合の供血者の検査結果
A-0600023	3-06057	2006/5/2	2006/5/17	人血血小板濃厚液 被疑薬:採血後3日目 人赤血球濃厚液 被疑薬:採血後13日目	男	70	血液疾患	細菌感染	2006/05	-	院内血培にて Staphylococcus aureusを同定。	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし	血小版は、同一採血番号の血漿1本、赤血球製剤1本で無菌試験実施: S.aureus検出なし		患者死亡例(備票) ・S.aureusが検出された患者検体、血小版製剤、セグメントチューブ由来の菌検体入手し、以下の試験を行い、三者がMSSAであり同一の菌株であることを確認した。 細菌培養(同定)試験 薬剤感受性試験 コアグラゼ型(定型) 毒素産生(-) ハルスフィールド電気泳動法による遺伝子解析	10単位 2単位	-	原料血漿1本、新鮮凍結血漿2本を製造。全て確保済み。		重篤	死亡(敗血症による。輸血との関連性は不明)		献血者:35歳 男性 献血回数22回 ・アレルギー歴、アトピー性皮膚疾患、腫瘍歴、糖尿病の既往歴なし ・献血前の1ヶ月間に食中毒様の症状、小さな外傷、火傷、化粧などはいずれもなし ・採血時の皮膚所見正常 ・再献血を行い(06/06)、細菌培養試験実施:S.aureus検出されず。
A-0600013	3-06047	2006/4/14	2006/4/26	人赤血球濃厚液 被疑薬:採血後9~13日目 人血血小板濃厚液(放射線照射) 被疑薬:採血後3~4日目	女	60	血液腫瘍	細菌感染	06/03-06/04	検体なし	院内血培にて Bacillus cereusを同定	-	同一採血番号の血漿7本で無菌試験実施:「適合」			10単位 20単位	-	8本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。全て確保済み。		重篤	軽快		
A-0600016	3-06048	2006/4/19	2006/5/2	人赤血球濃厚液 被疑薬:採血後15日目	女	60	循環器疾患	細菌感染	2006/04	-	院内血培陰性	非溶血性副作用関連検査実施 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし	同一採血番号の血漿で無菌試験実施:「適合」			2単位	-	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。全て確保済み。		重篤	回復		
A-0600018	3-06052	2006/4/24	2006/5/8	人血血小板濃厚液(放射線照射) 被疑薬:採血後3日目 人赤血球濃厚液(放射線照射) 被疑薬:採血後6日目	女	70	血液腫瘍	細菌感染	2006/04	-	院内血培陰性	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし	照射血小版製剤の同一採血番号の血漿残りなし。照射赤血球MAPの同一採血番号の血漿で無菌試験実施:「適合」			10単位 2単位	-	2本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は1本確保済み、新鮮凍結血漿は確保済み。	原料血漿は1本使用済み。(プール処置済み。プール処置済み。新鮮凍結血漿は確保済み。)	中等度	軽快		
A-0600022	3-06056	2006/5/2	2006/5/17	人血血小板濃厚液(放射線照射) 被疑薬:採血後3日目	男	59	血液疾患、消化器腫瘍	細菌感染	2006/02	-	院内にて細菌菌同定	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし	同一採血番号の血漿2本について無菌試験実施:「適合」		患者死亡例(備票) (輸血との関連性不明)	20単位	-	2本の原料血漿を製造。全て確保済み。		重篤	死亡(輸血との関連性不明)		
A-0600026	3-06060	2006/5/8	2006/5/23	人赤血球濃厚液(放射線照射) 被疑薬:採血後13日目	女	60	消化器腫瘍	細菌感染	2006/05	-	院内にてグラム陰性桿菌検出(E.coli)	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし	当該製剤及び同一採血番号の血漿にて無菌試験実施:「適合」		検査結果を受けて、担当医より輸血血液との因果関係なしとのコメントあり。	2単位	-	原料血漿1本、新鮮凍結血漿1本を製造。全て確保済み。		中等度	軽快		
A-0600027	3-06061	2006/5/9	2006/5/23	人赤血球濃厚液 被疑薬:採血後6日目	女	<1	低出生体重	細菌感染	2006/04	検体なし	-	-	当該製剤にて無菌試験実施:「適合」			1単位	-	1本の原料血漿を製造し、確保済み。		中等度	軽快		
A-0600028	3-06062	2006/5/9	2006/5/23	人赤血球濃厚液 被疑薬:採血後12日目	男	40	血液腫瘍	細菌感染	2006/05	-	血培結果陰性	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし	当該製剤にて無菌試験実施:「適合」			2単位	-	原料血漿1本を製造し、確保済み。		重篤	未回復		
A-0600044	3-06078	2006/5/31	2006/6/13	人血血小板濃厚液 被疑薬:採血後2日目	男	20	血液腫瘍	細菌感染	2006/05	-	院内にてグラム陰性桿菌検出。大腸菌同定(患者は2ヶ月前の血培で陽性。大腸菌を検出している)	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし	同一採血番号の血漿で無菌試験実施:「適合」		血小版製剤のセグメントチューブで細菌培養試験実施。大腸菌検出されず	10単位	-	1本の原料血漿を製造し、確保済み。		中等度	未回復		
A-0600051	3-06082	2006/6/6	2006/6/20	人赤血球濃厚液(放射線照射) 被疑薬:採血後10日目	男	70	泌尿器腫瘍、消化器腫瘍	細菌感染	2006/5	-	-	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査 欠損なし	同一採血番号の血漿1本について無菌試験実施:「適合」			2単位	-	1本の原料血漿を製造し、確保済み。		中等度	回復		

-46-

A-06000523	06083	2006/6/6	2006/6/20	人血小板濃厚液(放射線照射) 被疑薬:採血後3日目	女	60	血液腫瘍	細菌感染	2006/6	-	院内血培養性。	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査: 欠損なし	投与中止の当該製剤で細菌試験を実施(適合)	10単位	-	1本の原料血漿を製造し、確保済み。	中等度	回復		
A-06000593	06088	2006/6/20	2006/6/30	人赤血球濃厚液 被疑薬:採血後9日目	女	40	血液腫瘍	細菌感染	2006/6	-	院内血培養性。	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査 陰性 ・血漿タンパク質欠損検査: 欠損なし	当該製剤で細菌試験を実施(適合)	2単位	-	1本の原料血漿を製造し、確保済み。	中等度	回復		
A-06000713	06098	2006/7/6	2006/7/18	新鮮凍結人血漿 被疑薬:採血後298日目	男	50	消化器疾患	細菌感染	2006/7	-	院内血培にてAcinetobacter sp.検出。	非溶血性副作用関連検査実施予定	当該製剤のセグメントチューブでエンドトキシン試験及び菌株試験を実施予定(同一採血番号の製剤は残っていない)	2単位	-	院内血培にて培養実施前日の患者喀痰からもAcinetobacter sp.検出されており、本剤の可能性は高いと考えられるとのコメントあり。	中等度	未回復		

識別番号	FAX受付日	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年齢	原疾患	感染産名	採血年月	検査項目	検査結果	検査結果の別	検査結果	検査結果	使用単位数	献血者再献血	同一献血者製剤確保	同一献血者製剤使用	感染産	備考	
A-06000004	2006/4/14		アルブミン (人血清アルブミン)	男	34	アルコール 性肝硬変	B型肝炎	2005/06	-	HBsAb(+) (06/01)		原料血漿及び 製品については、陰 性	輸血用製剤との 併用 日赤番号 3-06070と同一症 例							・05000254(取り下げ)の再 報告 ・保管検体NAT(-)より因果 関係否定
	2006/7/19		人ハプトグロビン(ハプトグロ ビン) フィブリノゲン加第13因子 加熱人血漿タンパク	女	60	心疾患	C型肝炎	2006/04 2006/04 2006/04 2006/04 2006/04	HCV-Ab(-) (06/02)	HCV-Ab(+) (06/07)		調査中	人赤血球濃厚 液、人血小板濃 厚液	2000単位 250mL 8単位 15単位					未回復	

問診による捕捉調査の実施状況及び
 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について
 (輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. HEV 問診調査状況

1) 調査期間:平成 16 年 11 月 1 日～平成 17 年 10 月 31 日^{※1}

北海道赤十字血液センター管内

	ブタ	シカ	イノシシ	不明	合計
男性	116 (0.07)	324 (0.19)	0 (0.00)	121 (0.07)	561 (0.32)
女性	59 (0.05)	108 (0.09)	2 (0.00)	72 (0.06)	241 (0.21)
合計	175 (0.06)	432 (0.15)	2 (0.00)	193 (0.07)	802 (0.28)

※1:問診内容「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

(): 期間内献血者総数に対する割合%

男性献血者総数 : 173,135

女性献血者総数 : 116,655

総献血者数 : 289,790

○HEV-RNA 検査結果

検査した 802 本から HEV-RNA は 1 本検出された。

2) 調査期間:平成 17 年 11 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日^{※2}

	11月	12月	1月	2月	3月	計
実献血者総数	24,192	25,169	23,363	22,369	23,714	118,807
問診該当者数	7,037	6,798	5,375	4,830	4,525	28,565
頻度(%)	29.1	27.0	23.0	21.6	19.1	24.0

※2:問診内容「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」

○HEV-RNA 検査結果

検査した 28,565 本から HEV-RNA は 10 本検出された。

2. 試行的 HEV 20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内

調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日

	総数	HEV-RNA 陽性	陽性率
献血者数	432,167	56	1/7,717

3. HEV-RNA陽性者の内訳

調査期間: 2005年1月1日～2006年6月30日

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当※1	摂食歴調査		遡及対象供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	不明	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当 ※1	摂食歴調査		選及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	-	-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+		回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	

※1:問診喫食歴調査内容

05年 1月1日～05年10月31日:「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日:「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了